

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100164		
法人名	社会福祉法人 正生会		
事業所名	グループホームつばさ(1階ユニット)		
所在地	焼津市田尻北790		
自己評価作成日	平成30年8月1日	評価結果市町村受理日	平成30年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=2295100164-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりが個性的にいつでも自分の想いをアピールできる環境作りにも努めています。レクリエーションや個人作業、地域サロンや買い物などユニット内だけでなく希望に応じて施設内外にて毎日の生活を楽しめるよう態勢を整えています。ご家族も協力的で家族イベントでは毎回10家族以上の参加があります。バスハイクでは孫家族が現地まで待っていてくれるなど家族揃っての小旅行のような楽しみもあります。家族会でご本人へのメッセージをお願いしたところ心温まるメッセージをいただき、入居者の方が涙する場面もありました。家族・ボランティア・地域住民など多くの協力のもと充実したサービスを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ポカリスエット、豆乳ミックスジュース(週3回)、甘酒(毎週日曜)、ゼリー(午前、午後1回)と、健康づくり一つとっても潤沢で、地域交流をはじめ地域密着型に求められる全てにおいて真摯に取り組む事業所です。特に家族との関係が充実していて、面会では職員一丸となって「また来たい」と思ってもらえる態勢を整え、本人の食事・水分摂取量などの状態報告を欠かさず また誕生月の2ヶ月前には日程や希望を確認する手厚さで、家族の満足度は友人や親戚からの入所の問い合わせの増加に裏打ちされています。真面目な一方でチャレンジ精神も旺盛で男性職員3名で結成されたズンドコダンスの踊りは来所者にも好評評価を得ています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に全職員で理念を作成。理念についての勉強会を開催するとともに会議の都度振り返りを行い、全職員が同じ方向に向かってケアを行っていくための道しるべとしている。	各ユニットに理念を貼り出し、フロア会議でも議題となり、さらに「ともに」の意味は利用者と職員のことだけでなく、「地域、家族…本人に関わりのある人みんな」を指していることは全職員が理解していて、「周囲をどう巻き込むか」が事業所の取組みに浸透しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回公民館で開催される居場所づくりに参加。顔見知りの仲間でも毎月サロンに出掛ける日を楽しみにしている。また園芸・音楽療法などボランティアが定期的に来所し交流している。	みなとちサロンや藤枝菊花展等、地域交流の機会を月2回程つくり、港公民館祭りではつばさの分としてお花をよけておいて待っていて下さるほど親交を深めています。他にも園芸や音楽療法のボランティア訪問が月に2、3回はあり、地域からの来訪者も大いに受入れています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居場所づくりへの参加や防災訓練における地域住民との事前打ち合わせを行うことにより地域の方々の認知症の人への理解が深まってきている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや現状報告を行い助言をいただいている。公民館での居場所づくりの他、公会堂で開催される居場所づくりの情報提供もいただき2ヶ月に1度参加させていただいている。	自治会長の音頭取りで地域の皆さんと防災訓練ができたり、民生委員の投げかけでサロンのお出かけ先もさらに1つ増えています。圧巻なのは民生委員4名が集っていることで、地域ケア会議さながらの場に育っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて報告、助言をいただいている。また運営推進会議以外にもグループホーム連絡会などでも助言をいただいている。また介護相談員の訪問では入居者との交流時間を設けた後、実状報告をしている。	市役所のバックアップで3ヶ月に1度開催されるグループホーム連絡会は7年と長く続き、各事業所訪問ツアーを経て現在は、とろみ剤の業者を招いたり、焼津市の危機管理課に防災指導をお願いしたりと順調に発展しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束廃止委員会・身体拘束廃止勉強会を開催している。勉強会では入居者の事例研究にも取り組み身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	本年の改正前から、事業所では身体拘束は正の取組みを推し進めており、引き続き毎月の身体拘束廃止勉強会を実施しています。知識学習と現場に即した個別対応(現在対象となる人はいないため予防対策)について隔催に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回職員のストレスチェックを実施。職員のストレスから虐待に至ることのないよう配慮している。また全体会にて高齢者虐待防止関連法について勉強会を開催している。			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ファイルを作成し、職員がいつでも閲覧し学べるようにしている。また成年後見制度の利用を検討している家族に対し助言・支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。バスハイク・夏祭り・秋祭りなど家族参加の行事を多く開催している。行事開催時にはアンケートや意見・要望の聞き取りを行い運営に反映させている。また、面会の際にも必ず意見要望等の確認を行っている。	面会数は月1回～8回と差はあるものの、どの職員も家族と会話をもつことを旨とし、コミュニケーションを充実させています。また静岡空港やカフェへと遠足気分で行ける家族会も充実し、家族間では兄弟、親子の新たな一面を発見するサプライズの機会ともなっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会開催前にはすべての職員にアンケートを取り、職員の意見や提案を聞いている。年度初めには目標管理シートを作成し年間を通しての自己目標を明確にしている。またサンクスカードを取り入れ職員間で評価し合う気持ちを育てている。	目標管理シートで目標を明確にし、サンクスカードで同僚のいい事を発見する日々の積み重ねが職員を育て、礼節と意欲があるチームワークの高い集団に育っています。代表者も日常的に会話を持ち、管理者が会議前にはペーパーで意見収集する等上位者のフォローも十分です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設理念と部署目標に基づき、個々の年間目標を作成し取り組み、年度末に達成度を評価している。年2回自己評価を行い、上司が個々の職員の努力に対し評価している。またリフレッシュ休暇の取得に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月隣接施設の内部研修に参加。また認知症介護実践者研修など外部研修にも積極的に参加している。参加後には報告会を開催し、施設全体がレベルアップできるよう全職員で取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	焼津市内のグループホーム連絡会に参加している。(1回/3ヶ月)。グループホーム連絡会では意見交換の他、勉強会も開催し学びを深めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プランの作成。センター方式 B-3シートの記入。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの作成。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランの作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式 D-5シートにて振り返りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会議において家族との関わりについても話し合いを行っている。バスハイク・家族会・誕生会など入居者と家族と一緒に過ごせる時間を多く設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のスーパーや菓子店での買い物。自宅のほか馴染みのある場所への外出について家族に提案、必要に応じて協力体制を整えている。近所の方々の面会もある。また特養喫茶コーナーに出掛け、コーヒーや特養職員との会話も楽しんでいる。	縫い物の得意な人は「おふくんくらいならいいよ」と役割を担ってくださったり、書道や書写を続ける人には職員が声をかけて準備を整えています。誕生月の2ヶ月前には家族に日程や希望を確認して、その日は職員がお寺や自宅に送迎したり、外食につき合う等の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や助け合いの気持ちを大切にし、必要に応じて職員が間に入るようにしている。体操や壁画作りの活動を通して励まし称え合い、仲間と過ごすことで感じられる幸せを大切にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式 C-1-2シートの記入。24時間シートの活用。生活の中で自己決定する機会を多く持つようにしている。時間ごとに変化する入居者の心の変化に合わせ「本人の気持ちは今どの時代にあるのか」など情報収集を行い声掛けの方法等に配慮している。	「私の姿と気持ちシート」「24時間シート」にじっくり向き合うことで利用者本人の状態把握を確かなものにしていきます。喜怒哀楽をニコニコマークの変形版で表示することでひと目で判るような工夫もあります。何より、フロアでの職員の関わりの様子に安心感を覚えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望者調査の資料の作成。 センター方式 B-3シートの記入。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式 C-1-1、D-1、D-2シートの記入。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアチェックは各入居者の担当と介護支援専門員が行い、D-5シートは他5名の職員が記入。本人・家族からの意見の聞き取り。多くの人が関わり介護計画を作成している。モニタリングについても約1ヶ月、重点的に状態観察を行い実施している。	毎日業務日誌にも残し、四半期毎のモニタリング記録票、半年に1度のケアチェック表と、適切な段取りを踏む一方で、昨日(晩)のSOAP(S…本人の訴え、O…観察した様子~)や、焦点情報(わたしの求める関わり方シート)も併せて進められていて、堅固な体制にあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた記録の記入。統一したケアを行うことができるよう特記事項については別紙にて保存、SOAPファイルにすべての情報を集約し活用している。全体会では全入居者について振り返りを行い最善のケアを提供できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	園芸・誕生会・レクリエーション・季節メニューなど入居者のニーズを最大限に取り入れることができるよう実施の2ヶ月前から起案を立て準備を行う。また受診介助など家族での対応が難しい場合には状況に応じ柔軟に支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	みなとマラソン・区民体育大会や田尻北区さくら祭りなど様々な地域行事に参加。「菊花展」や「まちかど展」など季節や芸術を楽しむ機会も取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は全入居者が協力医を利用している。入居者1人に対し月2回の往診あり。往診表の作成・活用。協力医との連携により日常的に質問や確認がとれる体制が整っている。主治医による家族へのムンテラも希望に応じて行っている。	協力医の月2回訪問診療では医師の訪問が月8回あり、その日受診のない人でも体調変化があれば診てもらえるほか、週4日勤務の看護師がその場に立ち合い、家族に電話で医療情報を報告しています。また家族の希望があれば同席が叶うなど、総じて親身で丁寧な医療態勢です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	軟膏一覧の作成・薬事情報の差し替え。往診・受診時の結果についても看護職員から介護職員へ申し送りを行い、看介護ともに統一したケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より協力病院との連携を図り情報収集を行っている。入院期間中には適宜看護師が病院に出向き、病状確認を行う。管理者・看護師ともに主治医・相談員との連絡を密にし早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については適宜家族と確認。家族と方針を共有している。カンファレンス開催時に急変時対応確認書にて家族の気持ちを確認している。	「家族の気持ちに副った対応を」と、急変時の確認書は半年に1度とり直しをしています。自然な形でお見送りしたことはありますが、看取りの実績は過去にもありません。医療が必要となったり、口径摂取できなくなったら医療機関への移設をお願いしていて、家族も合意しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会等で勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの整備、定期的な防災訓練の実施。地域住民とともに隣接する特養2階へ入居者を搬送する訓練を実施。搬送方法についてGH連絡会や総合防災訓練を通じて他施設へも伝達。ケアマネージャーからの問い合わせもある。	消火、避難、地震対応、避難通路、排煙窓操作等ミニ訓練を毎月防火委員が中心となって繰り返し実施し、法定訓練は隣にある特別養護老人ホームと合同でおこない、また焼津市の防災担当者が施設内研修を毎年おこなってくださっていて盤石の体制にあります。	非難タワー、井戸水があることを今後も地域へ発信し、さらに炊き出しなど事業所ならではのアイデアを加味して、地域ぐるみでの防災がさらに進むことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「ユマニチュード=優しさを伝える介護」について全職員で学び取り組んでいる。入居者の視点に立ち、その想いを尊重するという介護者としての基本を常に忘れず、職員間で助言し合いながらケアにあたっている。	「どの人が関わっても同じようなケアができるように」毎月のフロア会議で統一した介護の形をつくり、細かい箇所を摺合せていて、職員一人ひとりの言動にユマニチュードの学びが滲み、利用者の満足気な表情や甘えたような口調がその精度を物語っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面で些細なことであっても問いかけを行い自身で決めてもらうようにしている。また個々の能力を把握し過剰な介護にならないよう職員間で統一している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「今日は何をして過ごしたいか」を入居者に聞くようにしている。その他、入浴時間も個々のペースに合わせて本人に決めてもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容時のカットやカラーの実施。入浴前には職員と居室に行き、着たい服を一緒に選ぶようにしている。また整容時や入浴後には手持ちの化粧品でおしゃれを楽しむ環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回季節メニューを取り入れている。メニューは入居者の意見を聞きながら作成している。季節に合わせたおやつ作りなど入居者の皆さんにも参加していただき楽しみややりがいがある時間を提供している。	刻みやとろみが必要な人にはひと手間加え、主菜と副菜2品の家庭的な手作りメニューが提供されています。シーズンごとに食レクリエーションとしておはぎやホットケーキのデコレーションもあり、週に1回は「その時節らしいもの」という膳を考案しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士から助言をもらいながら、看介護職員が情報を共有し支援を行っている。食事形態や摂取方法など日々検討し援助している。とろみ剤については個々の入居者の状態に合わせて分量を統一使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。必要に応じて歯科受診を検討。食事前にはお茶でうがいを実施。食事をおいしく・安全に食べることができるよう嚥下体操を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便秘予防に豆乳ミックスジュースを週3日提供。昼夜とも排泄パターンを把握しトイレへの声掛けを行っている。可能な限りリハビリからボクサーパンツへの移行を検討し皮膚状態の改善に努めている。	排泄チェック表は全員つけていて、便の形状もインシヤルで記号化して細かな記録としています。できるだけ便座で気持ち良くできるよう腹部マッサージ然り本人の癖、特徴を掴んでいて、新人にも適切に伝授されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やメニューに乳製品や野菜を取り入れたり、散歩や運動を行い腸の動きを活性化させ自然排便を促している。排便状態の把握・腹部マッサージに加えて、週3回豆乳ミックスジュースを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望に応じて入浴してもらっている。また入浴予定を伝え、1日のスケジュールを入居者自身に決めてもらっている。個人のリラックスした空間からか、入居者の皆さんが職員に笑顔で色々な話をしてくださることも多い。	入浴は週3日を目安にはしていますが、本人本位を念頭に柔軟に対応しています。また、予め入浴日であることを伝え、1日をどう配分するかも本人と職員とで相談していて、自立生活を支援しています。かわり湯として柚子や菖蒲などを浮かべる日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた静養時間の確保。また夜間ぐっすり眠れるよう、日中の活動量の調整を行っている。居室環境についても個々の希望に応じて統一したケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報のファイリング実施。与薬時には必ず本人の状態確認を行うことを基本としている。服薬の変更について特記事項の用紙で情報共有しその後の経過についても注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業、貼り絵、塗り絵など個々の入居者が得意分野を發揮し楽しめるよう支援している。入居者からも「今日はこれをやりたい」と声があがることも多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員間の連携を密にし入居者の希望に応じて外出している。家族とのバスハイクでは花カフェや静岡空港・パン屋などに出掛け家族との時間を楽しんだ。個別での買い物やドライブ・お墓参りなども実施している。	職員の中で「1日1回出ましょう」という取決めもあり、菜園の手入れやベンチでの外気浴にも楽しむほか、焼津青少年の家まつりをはじめとする地域交流、家族を誘ってのバスハイクやお花見ドライブもあって地域での活動がPDCAサイクルに乗って充実しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理のもとお金を持っている入居者もいる。施設の自動販売機で好きな飲み物を購入したり、お孫さんの面会時にジュースを買ってあげている姿も見受けられる。食費より出費しおやつを買いに出掛けることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙の投函を行っている。ひ孫さんとの手紙等のやり取り。その後継続して交流できる体制の支援を行っている。また近況報告として秋にはメッセージカードを、お正月には年賀状を家族宛てに送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前回の外部評価時に2階は臭いがこもっていると指摘をいただき原因を調査。配管に問題があったため配管工事を行いました。その後も施設内外の環境整備に努めています。	鏡に映る自身を見て状態変化がある利用者がいます。本来なら目隠しカーテンを置くところ、事業所では利用者のレク作品で彩を添えていて、一見すると鏡があったことに気づかないほどです。配管が痛んでいて臭いが発生していましたが、速やかに補修に着手していました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の入居者のニーズに合わせて適宜居室内に畳コーナーを設置している。また中庭の花や野菜の手入れを入居者と一緒に行っている。「他の階の仲間に会いたい」と遊びに行き楽しんでくる入居者もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや仏壇の持ち込み。ご家族に見守られていることを実感できるよう家族会にてご家族からいただいたメッセージを各居室に飾っている。家族やお孫さんとの写真などを飾り次回の面会を楽しみにしている入居者も多い。	大きな筆筒や仏壇、孫の写真やカレンダーのほか、事業所がセッティングをして成り立った家族と共に収まった写真や家族メッセージが微笑ましく、気持ちが穏やかになります。また事業所のこだわりとして各居室には温度湿度計が設置され、職員が室内状況に気配りしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには入居者の方が書いてくださった「便所」という看板を使用している。ホワイトボードに書かれたメニューを読み食事を楽しみにしている入居者も多い。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100164		
法人名	社会福祉法人 正生会		
事業所名	グループホームつばさ(2階ユニット)		
所在地	焼津市田尻北790		
自己評価作成日	平成30年8月1日	評価結果市町村受理日	平成30年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=2295100164-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりが個性的にいつでも自分の想いをアピールできる環境作りにも努めています。レクリエーションや個人作業、地域サロンや買い物などユニット内だけでなく希望に応じて施設内外にて毎日の生活を楽しめるよう態勢を整えています。ご家族も協力的で家族イベントでは毎回10家族以上の参加があります。バスハイクでは孫家族が現地まで待っていてくれるなど家族揃っての小旅行のような楽しみもあります。家族会ではご本人へのメッセージをお願いしたところ心温まるメッセージをいただき、入居者の方が涙する場面もありました。家族・ボランティア・地域住民など多くの協力のもと充実したサービスを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ポカリスエット、豆乳ミックスジュース(週3回)、甘酒(毎週日曜)、ゼリー(午前、午後1回)と、健康づくり一つとっても潤沢で、地域交流をはじめ地域密着型に求められる全てにおいて真摯に取り組む事業所です。特に家族との関係が充実していて、面会では職員一丸となって「また来たい」と思ってもらえる態勢を整え、本人の食事・水分摂取量などの状態報告を欠かさず また誕生月の2ヶ月前には日程や希望を確認する手厚さで、家族の満足度は友人や親戚からの入所の問い合わせの増加に裏打ちされています。真面目な一方でチャレンジ精神も旺盛で男性職員3名で結成されたズンドコダンスの踊りは来所者にも好評評価を得ています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に全職員で理念を作成。理念についての勉強会を開催するとともに会議の都度振り返りを行い、全職員が同じ方向に向かってケアを行っていくための道しるべとしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回公民館で開催される居場所づくりに参加。顔見知りの仲間もでき毎月サロンに出掛ける日を楽しみにしている。また園芸・音楽療法などボランティアが定期的に来所し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居場所づくりへの参加や防災訓練における地域住民との事前打ち合わせを行うことにより地域の方々の認知症の人への理解が深まってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや現状報告を行い助言をいただいている。公民館での居場所づくりの他、公会堂で開催される居場所づくりの情報提供もいただき2ヶ月に1度参加させていただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて報告、助言をいただいている。また運営推進会議以外にもグループホーム連絡会などでも助言をいただいている。また介護相談員の訪問では入居者との交流時間を設けた後、実状報告をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束廃止委員会・身体拘束廃止勉強会を開催している。勉強会では入居者の事例研究にも取り組み身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回職員のストレスチェックを実施。職員のストレスから虐待に至ることのないよう配慮している。また全体会にて高齢者虐待防止関連法について勉強会を開催している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ファイルを作成し、職員がいつでも閲覧し学べるようにしている。また成年後見制度の利用を検討している家族に対し助言・支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。バスハイク・夏祭り・秋祭りなど家族参加の行事を多く開催している。行事開催時にはアンケートや意見・要望の聞き取りを行い運営に反映させている。また、面会の際にも必ず意見要望等の確認を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会開催前にはすべての職員にアンケートを取り、職員の意見や提案を聞いている。年度初めには目標管理シートを作成し年間を通しての自己目標を明確にしている。またサンクスカードを取り入れ職員間で評価し合う気持ちを育てている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設理念と部署目標に基づき、個々の年間目標を作成し取り組み、年度末に達成度を評価している。年2回自己評価を行い、上司が個々の職員の努力に対し評価している。またリフレッシュ休暇の取得に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月隣接施設の内部研修に参加。また認知症介護実践者研修など外部研修にも積極的に参加している。参加後には報告会を開催し、施設全体がレベルアップできるよう全職員で取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	焼津市内のグループホーム連絡会に参加している。(1回/3ヶ月)。グループホーム連絡会では意見交換の他、勉強会も開催し学びを深めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プランの作成。センター方式 B-3シートの記入。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの作成。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランの作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式 D-5シートにて振り返りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会議において家族との関わりについても話し合いを行っている。バスハイク・家族会・誕生会など入居者と家族と一緒に過ごせる時間を多く設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のスーパーや菓子店での買い物。自宅のほか馴染みのある場所への外出について家族に提案、必要に応じて協力体制を整えている。近所の方々の面会もある。また特養喫茶コーナーに出掛け、コーヒーや特養職員との会話も楽しんでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や助け合いの気持ちを大切にし、必要に応じて職員が間に入るようにしている。体操や壁画作りの活動を通して励まし称え合い、仲間と過ごすことで感じられる幸せを大切にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式 C-1-2シートの記入。24時間シートを活用。生活の中で自己決定する機会を多く持つようにしている。時間ごとに変化する入居者の心の変化に合わせて「本人の気持ちは今どの時代にあるのか」など情報収集を行い声掛けの方法等に配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望者調査の資料の作成。 センター方式 B-3シートの記入。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式 C-1-1、D-1、D-2シートの記入。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアチェックは各入居者の担当と介護支援専門員が行い、D-5シートは他5名の職員が記入。本人・家族からの意見の聞き取り。多くの人が関わり介護計画を作成している。モニタリングについても約1ヶ月、重点的に状態観察を行い実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた記録の記入。統一したケアを行うことができるよう特記事項については別紙にて保存、SOAPファイルにすべての情報を集約し活用している。全体会では全入居者について振り返りを行い最善のケアを提供できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	園芸・誕生会・レクリエーション・季節メニューなど入居者のニーズを最大限に取り入れることができるよう実施の2ヶ月前から起案を立て準備を行う。また受診介助など家族での対応が難しい場合には状況に応じ柔軟に支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	みなとマラソン・区民体育大会や田尻北区さくら祭りなど様々な地域行事に参加。「菊花展」や「まちかど展」など季節や芸術を楽しむ機会も取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は全入居者が協力医を利用している。入居者1人に対し月2回の往診あり。往診表の作成・活用。協力医との連携により日常的に質問や確認がとれる体制が整っている。主治医による家族へのムンテラも希望に応じて行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	軟膏一覧の作成・薬事情報の差し替え。往診・受診時の結果についても看護職員から介護職員へ申し送りを行い、看介護ともに統一したケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より協力病院との連携を図り情報収集を行っている。入院期間中には適宜看護師が病院に向き、病状確認を行う。管理者・看護師ともに主治医・相談員との連絡を密にし早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については適宜家族と確認。家族と方針を共有している。カンファレンス開催時に急変時対応確認書にて家族の気持ちを確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会等で勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの整備、定期的な防災訓練の実施。地域住民とともに隣接する特養2階へ入居者を搬送する訓練を実施。搬送方法についてGH連絡会や総合防災訓練を通じて他施設へも伝達。ケアマネージャーからの問い合わせもある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「ユマニチュード=優しさを伝える介護」について全職員で学び取り組んでいる。入居者の視点に立ち、その想いを尊重するという介護者としての基本を常に忘れず、職員間で助言し合いながらケアにあたっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面で些細なことであっても問いかけを行い自身で決めてもらうようにしている。また個々の能力を把握し過剰な介護にならないよう職員間で統一している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「今日は何をして過ごしたいか」を入居者に聞くようにしている。その他、入浴時間も個々のペースに合わせて本人に決めてもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容時のカットやカラーの実施。入浴前には職員と居室に行き、着たい服と一緒に選ぶようにしている。また整容時や入浴後には手持ちの化粧品でおしゃれを楽しむ環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回季節メニューを取り入れている。メニューは入居者の意見を聞きながら作成している。季節に合わせたおやつ作りなど入居者の皆さんにも参加していただき楽しみややりがいがある時間を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士から助言をもらいながら、看介護職員が情報を共有し支援を行っている。食事形態や摂取方法など日々検討し援助している。とろみ剤については個々の入居者の状態に合わせて分量を統一使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。必要に応じて歯科受診を検討。食事前にはお茶でうがいを実施。食事をおいしく・安全に食べることができるよう嚥下体操を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便秘予防に豆乳ミックスジュースを週3日提供。昼夜とも排泄パターンを把握しトイレへの声掛けを行っている。可能な限りリハパンからボクサーパンツへの移行を検討し皮膚状態の改善に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やメニューに乳製品や野菜を取り入れたり、散歩や運動を行い腸の動きを活性化させ自然排便を促している。排便状態の把握・腹部マッサージに加えて、週3回豆乳ミックスジュースを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に応じて入浴してもらっている。また入浴予定を伝え、1日のスケジュールを入居者自身に決めてもらっている。個人のリラックスした空間からか、入居者の皆さんが職員に笑顔で色々な話をしてくださることも多い。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた静養時間の確保。また夜間ぐっすり眠れるよう、日中の活動量の調整を行っている。居室環境についても個々の希望に応じて統一したケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報のファイリング実施。与薬時には必ず本人の状態確認を行うことを基本としている。服薬の変更について特記事項の用紙で情報共有しその後の経過についても注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業、貼り絵、塗り絵など個々の入居者が得意分野を發揮し楽しめるよう支援している。入居者からも「今日はこれをやりたい」と声があがることも多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員間の連携を密にし入居者の希望に応じて外出している。家族とのバスハイクでは花カフェや静岡空港・パン屋などに出掛け家族との時間を楽しんだ。個別での買い物やドライブ・お墓参りなども実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理のもとお金を持っている入居者もいる。施設の自動販売機で好きな飲み物を購入したり、お孫さんの面会時にジュースを買ってあげている姿も見受けられる。食費より出費しおやつを買いに出掛けることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙の投函を行っている。ひ孫さんとの手紙等のやり取り。その後継続して交流できる体制の支援を行っている。また近況報告として秋にはメッセージカードを、お正月には年賀状を家族宛てに送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前回の外部評価時に2階は臭いがこもっていると指摘をいただき原因を調査。配管に問題があったため配管工事を行いました。その後も施設内外の環境整備に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の入居者のニーズに合わせて適宜居室内に畳コーナーを設置している。また中庭の花や野菜の手入れを入居者と一緒に行っている。「他の階の仲間に会いたい」と遊びに行き楽しんでくる入居者もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや仏壇の持ち込み。ご家族に見守られていることを実感できるよう家族会にてご家族からいただいたメッセージを各居室に飾っている。家族やお孫さんとの写真などを飾り次回の面会を楽しみしている入居者も多い。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには入居者の方が書いてくださった「便所」という看板を使用している。ホワイトボードに書かれたメニューを読み食事を楽みにしている入居者も多い。		